

豪州準備銀行は政策の様子見姿勢を維持

- 豪州準備銀行(RBA)は8会合連続で政策金利を1.50%で据え置く決定を下し、政策の様子見姿勢を維持。
- RBAは豪州景気の見通しを概ね維持。実質GDP成長率は今後2~3年にわたって3%強の水準へ上昇すると予想。
- RBAは豪州景気力の強さが増すに連れ、基調インフレ率の一段の上昇を見込む。今後は賃金上昇の行方が焦点に。
- RBAの政策金利は当面据え置かれる公算が高い。市場予想でも2017年末までの政策金利据え置きの見方が大勢。

RBAは政策金利を据え置き、様子見姿勢を維持

豪州準備銀行(RBA)は5月2日の金融政策理事会において、政策金利を1.50%で8会合連続で据え置き、政策の様子見姿勢を維持しました(図1)。

RBAは従来からの豪州景気見通しを概ね維持

フィリップ・ロウ総裁の声明文では、世界経済の回復が広がりを見せており、世界的な雇用環境の引き締めりと経済見通しの上方修正傾向が続いていることが指摘されました。

一方、豪州景気に関しては、RBAの景気見通しは従来から概ね変わっていないとの見方が示されました。RBAによれば、豪州の実質GDP成長率は今後2~3年にわたって3%強の水準へ緩やかに上昇すると予想されています。RBAの経済見通しの詳細は5月5日の四半期金融政策報告で公表される予定です。

賃金上昇の行方が雇用・物価判断の焦点に

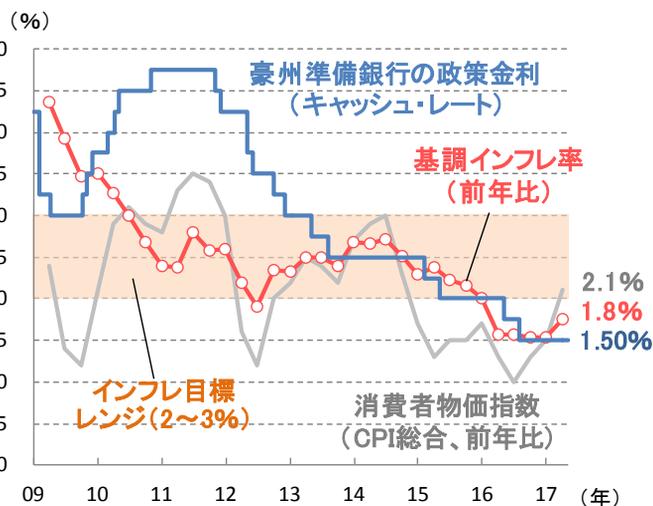
豪州の2017年1-3月期の消費者物価指数(CPI)は前年比+2.1%と、インフレ目標レンジ内へ回復しました。基調インフレ率も1-3月期は前年比+1.8%へ緩やかに持ち直しており、RBAでは景気力の強さが増すに連れ、基調インフレ率の一段の上昇が予想されるとの見方を示しました。

雇用環境に関しては、足元で雇用が力強さを増しつつあるものの、失業率が高止まりしていることなどから、労働市場の指標は強弱が混在しているとの判断が示されました(図2)。今後は雇用環境の緩やかな改善が賃金上昇に波及するかがRBAの雇用と物価判断の焦点となりそうです。

市場では年末まで金利据え置きの見方が大勢

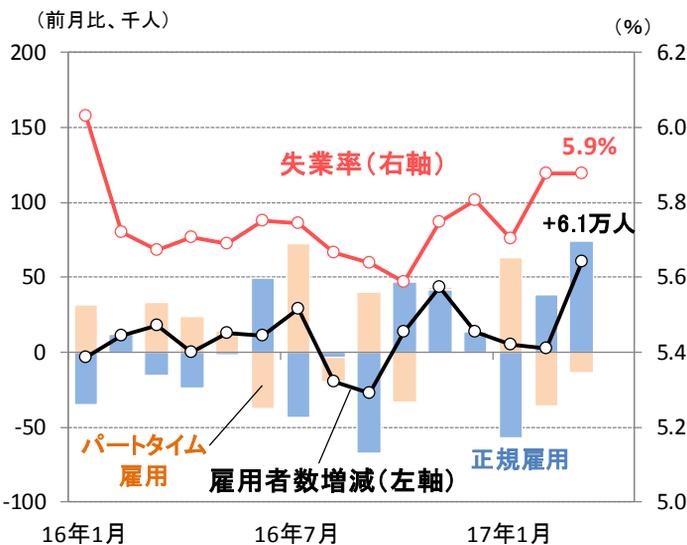
政策の様子見姿勢の維持により、RBAの政策金利は当面据え置かれる公算が高いと考えられます。ブルームバーグ集計の市場予想でも、2017年末まで政策金利が据え置かれるとの見方が大勢となっています。

図1: 豪州準備銀行(RBA)の政策金利とインフレ率



(出所) 豪州準備銀行(RBA)、豪州政府統計局(ABS)
 (期間) 物価指標: 2009年1-3月期～2017年1-3月期
 政策金利: 2009年1月1日～2017年5月2日
 (注) 基調インフレ率は消費者物価指数(CPI)のトリム平均値と加重中央値の平均により算出。

図2: 豪州の失業率と雇用者数増減



(出所) ABS (期間) 2016年1月～2017年3月

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものでありますが、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。